平成28年度第３回日本生理学会教育委員会議事録（案：委員会内のやや詳細版）

日　時　　2016年11月23日（水）　10時00分～12時00分
会　場　　東京慈恵会医科大学　高木会館５階　Ａ会議室
出席者　　石松秀（西九州大）、江崎誠治（大阪大谷大（認定委リエゾン））、岡本圭一郎（新潟大院医歯）、奥村哲（静岡理工科大）、河合佳子（東北医薬大）、鯉淵典之（群馬大）、小山なつ（滋賀医大）、椎橋実智男（埼玉医大）、鈴木敦子（健康科学大）、田中美智子（福岡県大院）、中島昭（藤田保健衛生大）、南沢享（慈恵会医大）、（以上50音順　敬称略）
欠席者　　渋谷 まさと（女子栄養短大）、深田 優子（生理研）、三谷 昌平（東京女子医大）、山下 俊一（女子栄養大（編集広報委リエゾン）、渡邉 マキノ（順天堂大（認定委リエゾン）

議　長　　鯉淵 典之 委員長　　書　記　奥村 哲

【報告事項】

１．前回教育委員会議事録について（奥村委員、資料１）

平成28年7月24日 慈恵会医科大学で開催された平成28年度第2回日本生理学会教育委員会議事録案が確認され、承認された。

２．　理事会報告について（資料２）

鯉淵委員長より配布資料に基づいて報告があった。第2回医学生生理学クイズ日本大会（4月16日（日）@大阪医大）の後援と委員派遣についての理事会への提案内容などが報告された。

３．　日生誌教育のページの進捗状況について（小山委員、資料あり）

配布資料に基づいて第78巻５号までの予定とその後数号の著者予定について報告があった。自主投稿が年1稿程度ある。今後は竹内雄一先生（ハンガリーセゲト大学医学部における生理学教育)、札幌大会の教育プログラムにおいて登壇された先生などの候補の検討を続けることになった。

４．　認定委員会からの報告（中島生理学エデュケーター認定委員会委員長、資料あり）

中島委員より資料にもとづいて、同委員会の理事会報告事項について報告があった。9月11日の認定委員会で行われた書類審査の結果（Ｈ２８年度は57名の出願があり、全員の出願申請を可としたこと）が報告された。また、エデュケーターの一時退会や海外留学時の対応についての規約の改正を理事会にお諮りすること、今後の実行計画の概要、浜松大会でもエデュケーションカフェを行うこと、英語表記について検討することなどが報告された。シニアエデュケーター制度については、過去に検討されたシニアエデュケーター認定の基準について再確認し、今後、実現可能な方法、時期について認定委員会を中心に検討していくこととなった。

５．　浜松大会教育プログラム準備進捗状況について（鯉淵委員長）　資料あり

プログラムの概要、エデュケーターカフェの実施、エデュケーターポイント記録のための資材、人手、映像記録などを準備状況などが確認された。今後さらに細かな調整が必要である。必要機材等については椎橋先生を中心に確認していく。

６．医学生生理学クイズ大会日本大会について　（鯉淵委員長　資料４）

次回2017年大会は4月16日（日）に大阪医大の主催で開催される予定である。この大阪大会へのChen先生の招聘（基本的には手弁当でご参加）に関してどういう支援が可能か？　「医学生」クイズという名称をどうするか？　などについて現時点での検討状況が報告された。

７．　生理学会-薬理学会合同教育シンポジウムについて（鯉淵委員長　資料５）

浜松大会で薬理学会（千葉大医（薬理）の安西尚彦先生）と計画中の合同シンポジウム（生理学から薬理学への医学教育キャリーオーバー：何をどこまで教えればよいのか？）について、中島委員と平野勝也先生（香川大学･医･自律機能生理）の発表抄録が報告された。初日の午前の開催予定である。

８．　他学会における連携シンポジウムについて（鯉淵委員長　資料６）

日本解剖学会ワークショップ（若手育成の現状と課題）において鯉淵委員長が「生理学会おける若手育成の取り組みについて」という演題名で発表することが報告された。

９．　「一歩一歩」の進捗状況について（椎橋委員　資料あり）

当日欠席の渋谷委員に代わって椎橋委員より、「一歩一歩」についてはコンテンツ内容が、一応の完成に至ったことが報告された。それを踏まえて、今後の方向性について著作権のあり方などについての方向性（考え方）が示された。教育委員会は「一歩一歩」が新たに作る法人と今後も引き続き監修などで関わって行くという内容であったが、報告事項のため具体的な決定はなされず、継続審議となった。

１０．　出版物の増刷について（鯉淵委員長　資料なし）

クリアブック、ＭＣＱについての増刷予定について口頭で報告された。また用語集についても今後進めていくことが報告された。

１１．　その他

今後の委員会のメンバーについて、2018年香川大会の課題などについて報告された。

討議事項

１．　浜松大会での教育プログラムについて　（石松委員）資料あり

既に、大まかな人選（プログラム）は出そろっているので、具体的な時間割、座長、最終調整すべきことなどが話合われ、プログラムの大枠が討議された。

２．　高校生の生理学会での発表について（南沢委員）

分子生物学会年会における高校生発表プログラムの演題一覧、参加概要が参考資料として示された。生理学会年大会、あるいは地方会において高校生の発表を取り組んでいく方向で、南沢委員が理事会に提出する提案書を検討することなどが討論された。

３．　FAOPS教育サテライトと本大会の教育シンポジウムについて（鯉淵委員長　資料７）

現時点でのプログラム案について鯉淵委員長から資料にもとづいて提案された。ともに英語で行う教育ワークショップ（３月２７～２８日）と教育 one day symposium(29日)が検討されている。